

No. 6

地球の未来に

For the Future of Our Planet

地球のカケラの上で
今、何をすべきなのだろう
新しくこの世界に誕生した子どもたちは、
無限の可能性を持っている

幼い頃は、背伸びをしなければ
見えなかった電車の窓の外の景色も、
今では革靴を履くと、
空の青ささえ見えなくなった
みんな疲れているみたいだ……

どこのトンネルを抜けたら、
雪国に着くのだろう
でも、この街には、
トンネルなんてありはしないけど

文明は正しい方向へ進んでいるのか？
永遠に世界が続くためのシステムはあるのだろうか
でも、あなたには「寛容」という心を持って、
あなたの道を進んで行ってほしいと願う
僕も、人を許すことは難しい作業ではあるけど

たとえ空が永遠に灰色になったとしても、
いつか色のついた雪が降ってきたとしても